

公益社団法人 私立大学情報教育協会
2021 年度第 4 回短期大学会議教育改革 ICT 運営委員会議事録

- I. 日 時 令和 4 年 3 月 2 2 日 (金) 18 : 00 ~ 20 : 00
場 所 Zoom 会議室
- II. 出席者 戸高委員長、早坂委員、三田委員、西岡委員、後藤委員、大重委員
及川先生(山野美容理容短期大学)、治京先生(大阪夕陽丘学園短期大学)、
深町先生(和泉短期大学)
(事務局 井端事務局長、中村)

III. 検討事項

検討事項に入るに先立ち、事務局から来年度の事業計画で「短期大学教育改革 ICT 戦略会議」を中止した理事会の考えについて、概ね次の通りの報告・説明が行われた。

- ① 当初から高齢者支援事業、地域価値支援事業、プラットフォームの活用を目指しているが、計画通りに進んでいない。コンソーシアムの活動を積極化して、試行活動の経験知を蓄積して会議で議論できるようにするため、委員会及びコンソーシアム活動に重点を置くことにした。
- ② 高齢者支援事業については、異世代交流支援事業にとどまっており、高齢者の生きがいを高めるような事業に照準を合わせる必要がある。地域価値支援事業については、コンソーシアムの個別学校での活動にとどまっており、コンソーシアム校が協働し、それぞれの強みを発揮して価値創出の支援に繋げていく必要がある。地域課題取組み情報共有の支援事業については、プラットフォームが使われていないので、コンソーシアムに参加する短期大学が増えない。
- ③ 令和 3 年度のコンソーシアム活動を振り返り、上記の活動の方向性について、来年度の 1 年間で見通しを付けていきたい。

次いで、検討事項の 1 及び 2 について、資料①、②、②-1、②-2、③、③-1 に沿って報告・説明が行われた。

1. 令和 3 年度地域貢献支援事業コンソーシアム試行事業の取組み結果の確認について
2. 来年度のコンソーシアム取組み計画について
 - (1) 高齢者支援事業
 - ① 異世代交流支援事業として、6 月 2 回、7 月 1 回、実践女子大学短期大学部 24 名、山野美容理容短期大学 13 名、2 短期大学の異世代 10 名、baba lab 高齢者 8 名で実施した。11 月、12 月は山野短期大学の 2 年生 3 名と baba lab 高齢者 3 名で実施した。
ブレイクアウトルームを 15 部屋用意、学生 2 ~ 3 名に異世代者 1 ~ 3 名で参加して、参加者が 1 分プレゼンを行った後、意見交換を行った。
 - ② 「非接触」の活動として、コロナ収束後も新たなスタイルの交流として継続したい。複数の教育機関、異世代組織や自治体が連携することで、可能性が大きく広がることが明らかになった。学校間・異世代者・自治体や団体の連携を強化し、SDGs の目標 17(パートナーシップで目標を達成しよう)の実現を目指していきたい。
 - ③ 来年度は、前期に両校の学生同士で動画の制作と発表を行い、そこで培ったスキルを活用して、後期 11 月頃から学生が高齢者にインタビューし、それを基に動画を制作して発表することを検討している。
 - (2) 地域価値支援事業
 - ① 大阪夕陽丘学園短期大学として、志摩市と養父市と包括連携協定を結び、実施した。
志摩市とは、二つ取り組んだ。一つは、若年層への真珠 PR を目的に市主催の 2022 年パールズコレクションの企画を学生主体で準備したが、コロナの影響で大幅に企画案を縮小して 12 月に志摩市の気分を感じていただけるよう、学生が大阪の地下街でキャンペーンを実施したこともあり、十分な実施効果が得られたかどうかの検証が必要である。二つは志摩市の市民講座「羊毛フェルトのミニクリスマス作り講習会」を教員による遠隔で開催した。
養父市とは、養父市民会館新設のオープニングイベントとして、やぶ市民交流広場のこけら落としとして、12 月にキャリア創造学科 2 年生、29 名が中心に企画し、招待

状の作成から衣装やメイク、演出、ウエディングケーキ作りなどを行い、公募で選ばれたカップルの結婚式、披露宴を実施した。その様子が「短大生らが企画し結婚式」として神戸新聞に掲載された。

来年度については、パールズコレクションの継続開催を模索している。志摩市の市民講座は、引き続き積極的に実施してほしいとの要望があり、時期、内容等について今後協議を行う予定。養父市については、公募カップルでの結婚式等の定期的実施は難しいとの判断で、今後、志摩市同様市民講座等の開催や、結婚式実施の希望がある時には、包括連携協定に基づき、本学が協力することで協議を進めている。

- ② 別府大学短期大学部として、二つの事業に取り組んだ。一つは、食の観光に力を入れる津久見市の地域振興のため、発酵調味料を学生中心で開発をして、うまくタイアップするところが見つかったので、商品化に向けて今取り組んでいる。商品化の見通しがつけば、自治体、高校との連携ができるのではないかなと考えている。二つは、大分の郷土料理レシピの動画制作及び公開について、大分の新聞社からの依頼を受け、郷土料理の伝承を目的として、その作り方を動画で撮影し YouTube で公開するという活動を行った。別府大学食物栄養科学部と短期大学部でチームを作り、大分の郷土料理 18 品について、学生が動画で作り方を説明するというもので、1 品ずつ YouTube 上で公開され、動画のリンクの QR コードが 7 月 13 日～8 月 9 日の大分合同新聞に毎日掲載された。

来年度については、具体的な取組目標はまだ決定していないが、「ととのみそ」については引き続き商品化を目指し、津久見市と連携して検討を続けていく予定。

- ③ 和泉短期大学として、コロナへの対応を優先したため、コンソーシアム事業について何も実施できなかった。

(3) 地域課題取組み情報共有の支援事業

- ① どの地域でどういう取組を実施し、大学としてどのように連携協力しているのか、大学の教育にどのように貢献しているのか、新しいメンバーシップの方が入ってこられるようにプラットフォームで紹介していく必要がある。使いやすくて参考になるプラットフォームになって、地域価値が教育できればと思う。
- ② 目的は、地域課題に対する短期大学の取組み状況、支援事業の内容・成果、教育活動のノウハウ・評価等を掲載・共有して、地域貢献支援に対する理解の促進と推進普及に活用する。
- ③ 課題が 4 つある。1 つは、ユーザーは、コンソーシアムのメンバーの希望者となっているが、コンソーシアムのメンバー内だけで共有するのか、外部の希望者はどうするのか、URL を提供すればお見せすることはできる。2 つは、プラットフォームの管理者を私情協と西岡委員で対応しているが、委員・コンソーシアムで分担する必要がある。3 つは、活動記録における学生などの個人情報、動画などに出演する際の許諾取り付けの規約が未定なので作成する必要がある。4 つは、活動記録として機能が不十分、使いにくい、管理が未整備などにより、プラットフォームの運用が不振となっているので、どのように活用するのか、明確化しておく必要がある。
- ④ Google Classroom の主な特徴は、動画・音声でも結構早い。登録情報はコンソーシアムのメンバーからいつでも容易に参照可能で情報の総量に制限がない。セキュリティは Google が対応してくれる。私情協が契約して、無償で使えるようになっている。
- ⑤ プラットフォームにコンソーシアムの活動内容を体系的に掲載して、9 月に参加した短期大学に情報を発信し、コンソーシアムの新たなメンバーとして参加を促す必要がある。
- ⑥ 来年度の 5 月総会までに、プラットフォームに支援事業の内容、教育活動のノウハウ、成果などのフォーマット(音声・動画含む)を作り、それぞれ活動状況の情報を掲載する。フォーマットのひな型は西岡委員が作成する。
- ⑦ その上で、一般の短期大学に向けて情報を公開していくために、私情協のホームページに改めて掲載することにした。

3. その他

今回は、5 月 20 日 17 時 30 分にプラットフォームに掲載の内容について確認することにした。